

## パラオ通信 第2号

高橋吉男 (JICA シニア海外ボランティア)

All about SWINE 37/38, 46-49

日本では口蹄疫が大暴れで、皆さん大変ご苦労さまでした。

インターネットの普及でここパラオに居ても情報が入るので、毎日のように心配して見ていました。

研究会の開催も中止のやむなきにいたり、オール・アバウト・スワインも発行が延びる等の影響がありましたね。私のパラオ通信も1年ぶりとなりました。

日本では今度は高病原性のインフルエンザの発生で気の休まる暇がありませんね。

ここパラオには、口蹄疫はありません。PRRSとADも無いようです。また、北からの水禽類の渡りも無いので、インフルエンザは旅行者が持ち込む心配だけです。昨年是一部の離島ではインフルエンザを警戒する余り連絡船の運航を禁止したとの話もありました。

パラオでオリンピックがあるとの話を聞き、いったい何のことかと思いました。それはミクロネシアの8つの地域と国が参加し4年に一回開催される「ミクロネシア ゲーム」のことでした。今回は7回目でパラオが開催地でした。8月1日が開会式でした。主な参加国と地域はパラオ、グアム、サイパン、マーシャル群島(ピキニ環礁があります)そしてミクロネシアからは主要4島がそれぞれ別チームで参加、ポンペイ、チューク(昔はトラック群島と呼ばれました)、ヤップ(石のお金で有名です)、そしてコシュライでした。

ミクロネシアならではの競技がありました。3本の椰子の木に次々と登る競技は、登る早さもさることながら、降りる時の速さの早いこと、我々がまねをすれば手と足の皮を剥くこと疑い無しです。女性の部では椰子の実の皮をむきそれを割り、その内側の果肉をむく速さを競う競技もあり



ました。また、伝統的なアウトリガーを付けたカヌー競技もあり、面白いものでした。

パラオの生活に慣れるにつれ、色々な事が判って来ました。2年間の任期ですから、後の9ヶ月はあっという間に過ぎてしまいそうです。

年中夏の国ですから、時々今「何月」か判らなくなります。雨季と乾季があるのですが、雨季と言っても一日中降るわけではなく晴れ間も出ますし、乾季でも比較的雨量は少ないのですが毎日のように雨が降ります。

晴れると熱帯の日差しが強いので、雨がちでも曇り空の方が過ごしやすく、パラオでは晴れた日を良い天気とは言いません。雨が降らない程度の雲がかかっていることを良い天気と言います。

天気予報は、「晴れ時々曇り、一時雨、所により雷を伴い強く降るでしょう」と言えば外れることはありません。

今年の乾季には断水がありました。深夜10時から朝の5時までの断水です。結構雨は降っていると思うのですが、新聞では貯水池の水位が下がったためと報道されていました。

どこの国の水道でも送水管を敷設して古くなると漏水が問題となります。パラオも例外では無い様です。水道管内に水に圧力のある時は水は管から漏れるだけですから汚染は考えられません。しかし、断水して管内に水がなくなると水道管周囲の様々なものが管の中に滲入するでしょう。

断水以来「下痢」の患者が増えたようでした。

いつでも綺麗な水を安心して飲める、日本人にはちょっとした驚きではないでしょうか。

私どもは、普通に水が出ているときは食器を洗ったり、歯を磨く水は水道水をそのまま使用して、飲み水は水道の蛇口に取り付けた浄水器を通

して利用しています。しかし、断水が始まってからは食器洗いも浄水器を通した水を使用しました。おかげで下痢も無くすごすことが出来ました。

## パラオの歴史と日本

パラオの文化、言語、人種的な類似点は東アジア、フィリピンやインドネシアにあると言われ、紀元100年頃には人が住み始めたことが考古学的な調査で判っています。しかし、文字のない社会でしたので詳しいことは判っていません。多分、昔小さな船で大洋を数百キロ渡って来たのでしょう。今も、近代的な機器(GPS等)無しで数人のりのカヌーで数日かけて大洋を突っ切り島と島の間を航海する人達がいます。星を読んで航行する技術がなんとかまだ残っています。

パラオ諸島が西洋人によって発見されたのは1500年頃スペイン人によってでした。1855年ローマ法王の裁定で、スペインの植民地とされました。その後1899年にスペインはパラオをドイツに「売却」しました。価格は18,000マルク(450万ドル)だったそうです。現在の我々にはちょっと信じがたいことですが、当時は良くあったことなのでしょうか?

さて、日本ですがドイツの統治時代からパラオに目を付けていたようです。ドイツの妨害があったものの「株式会社南洋貿易」をパラオに設立し、1914年第1次世界大戦でドイツが負けたあと占領しその後国際連盟により日本の委任統治領としました。

1922年にはパラオに南洋群島(マーシャル群島、ミクロネシア連邦、北マリアナ諸島、パラオ)を管轄する日本の南洋庁が設置されました。

南洋庁の建物は現在も残っていて最高裁判所として使われています。

日本はパラオを太平洋での日本統治の最先端としたようです。日本人が沢山（現在のパラオの人口を上回る2万5千人の日本人が住んでいたとか）移住し芸者さんも沢山居たそうです。当時のコロール（パラオの中心地）の写真が残っていますが、それを見るととても綺麗な町並みで、今よりも住宅地ははるかに広がっていました。農業も現在より盛んでパイナップル、米やコブラ（椰子の実の内側で脂肪分のあるところでヤシ油を取ります）が作られていました。

農業、漁業等の研究所や学校それに南洋神社も作られました。

私の所属しているパラオ・コミュニティ・カレッジ（PCC）の発端は日本の作った「木工・徒弟養成所」と呼んだ専門学校だそうです。ちなみに、PCCの本館の建物は旧パラオ病院で、構内には防空壕のような跡や、今はジャングルのようになってしまった中に分け入ってみるとトーチカの跡も残っています。

地元のテレビで時折、放映している昔のフィルムで当時の学校の様子を見ることが出来ました。島民の子供達に対しては公学校と称する日本式の学校で日本語教育と皇民教育が行われました。一寸見た感じでは日本の小学校ですが、日本人の子供達とは別の学校でした。

そのためでしょう。現在でもお年よりは日本語を流暢に話します。何人かのお年寄りとお話する機会がありましたが、皆さん今では日本の教育を受けて良かったといっておられました。なんとなくうれしくなりました。日本のパラオでの統治の仕方は他の地域と異なっていたのでしょうか？

一般的には、パラオの人たちの日本人に対する印象は良いようで、日本人にとって暮らしやすい国です。

#### パラオと戦争

終戦の前年パラオでは壮絶な戦いがありました。パラオの南にあるアンガウル島とペリリュー島という2つの島で玉砕戦があったのです。

パラオの習慣で日本人が驚くのはビートルナッツ（びんろう樹の実）のチューイング（咬み咬みとでも言いましょうか）です。

びんろう樹は椰子の一種で、実は歌で知られる椰子の実ほど大きくなく親指位です。現地の人はその実をナイフで縦に2つに割り、貝殻や珊瑚を焼いて作った消石灰を挟みそれを胡椒科の植物の葉っぱでくるんで咬みます。何かの化学反応が起きるのでしょう、唾液が赤くなります。咬んで出た唾液は飲み込まずに吐き出しますので、街のそこら中に赤い跡が残っています。車の中や家の中では、空きペットボトルや空き缶に吐き出します。覚醒作用があるそうです。多くの人咬んでいることから、習慣性が強いのでしょうか。又、多く人は咬むときに紙巻タバコを3分の一位にちぎって一緒に咬んでいます。恐ろしい気持ちで見えています。喉頭がんの誘因とされ問題化していますが、多くの人には「そんなこと関係ない」様です。

#### 交通機関と交通事情

パラオには鉄道は勿論バス等の公共交通機関がありません。観光客用にはホテル、レストラン、ショッピングセンターを回るシャトルバスが運行

されています。一週間乗り放題のチケットなので観光で来られた方たちには重宝ですが、地元の人たちは利用していません。

タクシーがありますが、メーターが無く、乗る前に運転手と値段の交渉が必要で、運転手によって又乗る人によって値段が様々で、慣れないと利用しやすいものではありません。

狭い国ですが、このような交通事情ですので我々は車を購入することになります。

ほとんどの車は日本の中古車です。日本で10万キロもしくは10年を越えた車が日本からの輸入車の大半です。最近の日本は道路事情がよくなり、車の性能も耐久性も向上しましたし、更に世界で最も厳しい車検制度の国ですから、パラオで車を購入するには、日本から輸入した車を買うのが、もっとも信頼できるのです。

輸入車は各扉にシールを張って封印して船積みされます。輸入車は封印を破りシールがついたままで引き渡されます。そのシールの丈夫なこと、剥がすのが大変なので剥がさずに乗っている人が結構います。シールがついたまま燃料を入れに行くとガソリンスタンドで言われました「オー・ニュー！」なんと日本の中古車はパラオに入った時点で「新車」になるのです。

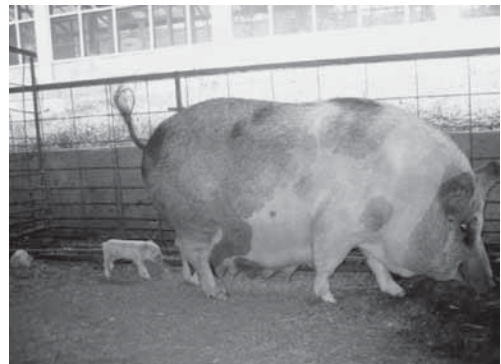
パラオはアメリカと同じ右側通行です。最初は本当に怖い思いをします。ほとんどの日本人は反対車線(左側)の通行を経験するのではないのでしょうか。私も何度か経験しました。今では慣れまし

たが、今度は日本に帰った後が心配です。

右側通行の国で右ハンドルの車です。日本のように左側通行の国では車の照明を下向きにした場合右側の上の光をカットし、左側の上のみを照らすように(左側の歩行者が見えるように)前照灯が調整されています。パラオでもそのままです。夜の道路で対向車が照明を下向きにしても、左側の対向車線を照らされるので眩しくて、大変です。

日本の車検制度と比べると車検は無いと同じです。ライトをつけて、ブレーキランプと方向指示器を確認します。車が壊れてもなかなか直しません。窓にビニールをテープで丁寧に張った車を良く見かけます。

思いつくままパラオ事情に触れましたが、今回はパラオの豚について触れたいと考えています。



野豚の子と孫